

号外

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2014年(平成26年)

1月24日(金)

発行所 琉球新報社
郵便番号 〒900-8525
那覇市天久905番地
©琉球新報社2014年

沖尚 センバツ決定

2年連続 6度目



2年連続出場に向け健闘を誓う沖尚ナイン=2013年12月3日、八重瀬町の尚学ボールパーク

美里工と同時出場

第86回選抜高校野球大会(3月21日から12日間・甲子園)の出場校を決める選考委員会が24日、毎日新聞大阪本社で開かれ、沖繩尚学と美里工が出場32校に名を連ねた。沖尚は2年連続6度目の出場で、3季連続の甲子園切符をつかんだ。美里工は学校創立48年目で初めて甲子園の土を踏む。県勢の2校出場は、興南と嘉手納が出場して興南が優勝した2010年春以来、4年ぶり2度目。

沖尚と美里工は昨年の県秋季大会決勝で対戦、続く九州大会でも初の県勢決勝対決を実現した。沖尚は県大会では準優勝だったが、続く九州大会で雪辱し、秋の九州2連覇を達成。さらに全国10地区の代表校が集う明治神宮大会でも快進撃を見せ、決勝は六回まで0-8の劣勢をひっくり返す圧巻の逆転劇で県勢初の頂点に立った。

美里工は県秋季大会決勝で沖尚を延長戦の末に3-0で破って21年ぶりの優勝を飾った。九州大会は最後に1点差で涙をのんだが、初戦、準々決勝を1-0で勝ち抜いた投手力や活発な打線など、総合力の高さを印象付けた。

選抜大会には秋季地区大会の成績を基にした一般選考29校(九州地区の神宮大会枠1を含む)と21世紀枠3校が出場。組み合わせ抽選会は3月14日に行う。

美里工 センバツへ

初の甲子園に闘志



選抜出場に向け気勢を上げる美里工ナイン＝2013年12月11日、沖縄市泡瀬の同校グラウンド

県勢2校出場 4年ぶり

沖尚 学校沿革

美里工 学校沿革

◆沖繩尚学高校(那覇市国場747) 1957(昭和32)年に開校した嘉数学園沖繩高校が前身で、83年に沖繩尚学高校として新たにスタートした。86年には付属中学校を設立、91年に嘉数学園から分離独立して学校法人尚学学園となった。高校は2001年からコース制を導入し、普通科に体育コースや東大国立医学科コースなどがある。生徒数は1140人。校訓は「怖れず、侮らず、A」らがある。

◆気負わず。野球のほか、柔道部やテニス部、なぎなた部も全国大会で活躍している。

◆野球部は57年に創部した。沖繩高時代を含め今回で春夏通算11度目の甲子園出場。99年春に県勢初制覇を達成、08年春にも優勝した。99年の優勝時にエースだった比嘉公也監督が06年に就任。現在の部員は46人。OBに東浜巨投手(ソフトバンク)、嶺井博希捕手(Denon)らがいる。

◆県立美里工業高校 工業高校で12位。2013年度上半期の第2種電気工事士合格者は80人、うち野球部33人を含む57人が部活生だった。

◆琉球政府立中部産業技術学校として設立。70年に琉球政府立美里工業高校となり、72年に県立となった。機械科、電気科、建築科、設備工業科、調理科の5学科があり、生徒数は765人。校訓は「自主・敬愛・勤労」。文部両道を掲げ、昨年度の資格検定取得者は延べ907人に上り、第1種電気工事士の合格者18人は全国の

◆野球部は1969年に創設され、94年夏の県大会で準優勝。昨年は夏の県大会2位、秋季県大会優勝、九州大会2位と躍進した。現在の部員は80人。神谷嘉宗監督は浦添商を率いた2008年夏の甲子園で4強入り。11年に美里工へ赴任、12年から監督を務める。